

養成する人材像

人文社会科学研究科全体

グローバル化や少子高齢化、情報化といった急激な社会の変化の中、労働市場や産業・就業構造の流動化によって将来予測が困難な時代を生き抜くために、高度専門職業人又は研究者として、「人間性」や「社会システム」の視点から、人間と社会が抱える複雑かつ多様な課題を学問的に分析できる能力及び創造的かつ実践的な解決策を提案し得る能力を身に付け、持続可能な社会の実現に貢献することができる人材を養成する。

歴史文化専攻修士課程

日本の歴史文化を中心とした広範な専門知識及び史資料読解力を有し、その知識・能力をもって史資料や史跡を今の時代に活用し、次世代へ向けて保存・管理する者として、あるいは広く歴史や伝統を踏まえた地域社会の発展を推進する者として、博物館その他の社会教育、自治体史編纂、まちづくり、学校教育、出版及び観光等の場において、グローバルな視野に立ちながら指導的な立場で活躍できる人材を養成する。

学位授与の方針（DP）

- DP1【共通】：研究に従事する者として、法令を遵守し、高い倫理観を持って行動することができる
- DP2【共通】：高度な研究手法を身に付け、主体的に研究活動を行うことができる
- DP3【共通】：自らの研究成果を文章および口頭により、説得力ある言葉で他者に的確に説明することができる
- DP4【共通】：グローバルな視点や学際的な視点から現代社会に生起する諸課題を理解し分析することができる
- DP5【専攻】：世界的な視野を持ちながら、日本の歴史と伝統・文化に関する体系的な知識を有している
- DP6【専攻】：現代の高度情報社会・ボーダレス社会が直面する諸問題を、歴史的観点・見地から実証的に分析し、その解決策を立案・提示することができる
- DP7【専攻】：歴史の専門知識と古文書や史資料の読解力を活かして歴史研究を行い、その成果を社会に正しく発信することができる
- DP8【専攻】：史資料や史跡を大切に保存・活用し、過去の歴史を未来に伝達・継承する自覚と技術を有している

教育課程編成・実施の方針（CP）要点<まとめ>

学位授与の方針（DP）

教育課程編成・実施の方針（CP）要点<まとめ>			学位授与の方針（DP）	
研究科共通 科目	研究者基礎力養成科目群	研究を遂行する上で必要となる基礎力を身に付ける	DP1～DP3	
	現代的課題科目群	現代社会に生起する多様な諸課題に関する学際的知識を身に付ける	DP4	
	留学生支援科目群	外国人留学生の日本語による論文執筆能力を向上させる	DP3	
	教職支援科目群	中等・高等教育現場における諸課題について思考する能力を身に付ける	DP4	
専攻固有科目	総合科目	「歴史文化研究基礎」 「歴史文化特殊研究」 「修士論文作成の基礎」 ・論文作成の基礎的な知識を身に付ける ・歴史学研究の流れ、史資料に関する知識を身に付ける	DP1・DP2	
	専門科目	日本史科目群※	日本史の各時代（織豊期を含む）、民俗、思想史及び日本史を取り巻く国際環境に関する高度な専門知識を身に付ける	DP5～DP8
		外国史、歴史科教育科目群※	主として地理歴史科教員又は社会科教員を目指して専修免許状の取得を目指す学生が、世界史の高度な専門知識及び歴史科教育について包括的に学修する	DP7
		文化財保存と活用科目群※	主として学芸員を目指す学生が、博物館史資料学を学修する	DP7・DP8
		研究指導科目群	研究指導教員が、修士論文の作成に直結する指導を行い、学生は研究の成果物としての修士論文を完成する	DP1～DP4 DP5～DP8
		論文執筆指導科目群	研究指導教員以外の教員が副指導教員として、修士論文執筆のための補完指導を行い、学生は研究の成果物としての修士論文を完成する	DP1～DP4 DP5～DP8
修士論文、最終試験（口頭）		「中京大学大学院人文社会科学研究科修士学位申請及び審査に関する内規」に定める修士論文等の審査基準を満たしている	DP1～DP3 DP6～DP8	

※特論Ⅰは、各分野に関するこれまでの研究成果に学びつつ、今日の研究課題を発見する能力を養成し、特論Ⅱは、個別の歴史資料や史跡、伝統的習俗について、その意義や価値を見出す能力を養成する。

入学者受入れの方針（AP）

- (知識・技能) AP1【共通】論理的な文章を作成する能力を有している
- (思考力・判断力・表現力) AP2【共通】一定の根拠に基づいて自らの判断で物事を考え、自らの意見を形成することができる
- AP3【共通】自らの問題意識を研究計画書等に整理してわかりやすく他者に伝えることができる
- (意欲・態度) AP4【共通】研究に真摯に取り組み、社会に貢献する志を有している
- AP5【共通】研究課題について、主体的に研究を遂行する意欲を有している
- AP6【共通】研究に携わる者として必要不可欠な倫理観を有している
- AP7【共通】専門領域に限定せず、現代社会に生起する諸現象、諸課題に深い関心を有している
- (知識・技能) AP8【専攻】研究しようとする時代や分野を中心に、日本の歴史文化全体に及ぶ基本的知識を有している
- AP9【専攻】歴史資料を読み解くことができ、それを歴史研究に活用するための基本的な技能と知識を有している
- AP10【専攻】外国人留学生は、日本語能力試験N1レベル又はそれに準ずる日本語能力を有している
- (思考力・判断力・表現力) AP11【専攻】研究に関する明確なテーマと計画を有し、研究しようとする事象について、日本の歴史文化の中に位置づけながら研究意義を説明できる
- AP12【専攻】歴史文化に関わる関連な議論を経ることによって自らを成長させてゆく自覚と、そのためのコミュニケーション能力を有している
- AP13【専攻】社会人学生及び外国人留学生は、これまでの学修歴や社会経験を歴史文化研究に関連づけて思考し、歴史文化研究に関わる新たな問題を発見する能力を有している
- (意欲・態度) AP14【専攻】日本の歴史文化に関する専門知識を活かして社会に貢献する意欲を有している